

『藤女子大学国文学雑誌』 投稿規程

- 1 「藤女子大学国文学雑誌」は藤女子大学日本語・日本文学会（日本語・日本文学科）の機関誌であり、会員からの日本文学・日本語学・日本文化・漢文学・国語教育関係などについての論考を募集します。
なお、本学を退職した旧会員からの投稿は認めることがありません。
- 2 投稿論文の枚数は、四〇〇字詰原稿用紙三〇枚から四〇枚を基準とします。
- 3 投稿論文は完全原稿とし、注の形式は既刊のものに準じてください。
- 4 投稿論文には連絡先を明記のうえ、本会事務局にお送りください。原稿は可能な限り電子ファイルとし、打ち出した原稿一部を添えて投稿してください。また、その際、四〇〇字に換算した枚数も書き添えてください。
- 5 投稿の採否は、編集委員会にご一任ください。なお、原稿はお返ししません。
- 6 投稿は随時受け付けます。但し、雑誌発行は年二回の予定です。
- 7 論文掲載の場合は、本誌五部と抜き刷り三〇部をお渡しします。
- 8 「藤女子大学国文学雑誌」に掲載された論文などの著作権は

著者に帰属するものとします。ただし、掲載された論文などの電子化及び電子化による公開については、本学及び本学が委託する機関が行うことを許諾するものとします。

編集後記

『藤女子大学国文学雑誌』一〇二号をお届けします。偶然の事とは言え、本誌九九・一〇〇合併号が平成最後の年の刊行となり、新たなスタートになった一〇一号、そして一〇二号が令和元年の発行であることには、感慨を覚えます。

本号は、本学科専任教員の論文三本と本学科卒業生の論文一本の計四本から成っています。分野別では、日本語学が（古典語系・近現代語系各一本）二本、古典文学が一本、近現代文学が一本で、掲載本数は少ないながらも、分野的にはバランスの取れた構成に成りました。

本誌には、今号同様、卒業生の優れた論文を掲載してきました。毎年一月の日本語・日本文学科の学科会議において、その年度の卒業研究（卒業論文）の中で、本誌に掲載し、広く研究者に読んでもらうレベルにあるものを、各指導教員が推薦します。それらの卒業論文が元になり、手直しを経て、卒業生論文が掲載されまます。大変残念なことですが、推薦されながらも、卒業後の多忙のため、掲載に至らなかった論文も少なからずあります。

当然のことながら、本誌は学術誌ですから、掲載論文はすべて、研究者などの批判の対象になるわけですが、卒業生の論文が高い評価をうける場合もしばしばあります。例えば、最近、本誌前号（一〇一号）に掲載の卒業生論文、秀舞子さん執筆の「北海道方

言における自発の助動詞サルの使用実態―主に世代差・男女差について―」が、読売新聞二〇一九年十一月十六日朝刊（道内版）に取り上げられ、「サル」の用法の変化を明らかにした論文として詳しく紹介されました。

このような質の高い本誌掲載の卒業生論文としては結実しないとしても、学生が卒業論文に意欲的に取り組む姿に、自身を鼓舞し、研究・教育に日々力を注がなければならないと思う次第です。